

あまたの鬼神をめして、葛木の山と、金の御峯とに橋をつくりわたせ、我がよふ道にせんといふ、神どもうれへなげ、共まぬかれず、せめおほすれば、わびて大なる石八を運てつくりと、のへで、わたしはじむ、ひるはかたち見にくし、夜かくれてつくりわたさんといひて、よるいそぎつくる、行者かつらぎの一言主の神をめしとりていはく、なにの耻あればか形をかくすべき、おそくはなつくりそといかりて、呪をもて、神を縛て谷の底にをきつ、

〔萬葉集十六有由縁井雜歌〕兒部女王嗤歌一首

美麗物何所不飽矣坂門等之角乃布久禮爾四具比相爾計六

右時有娘子姓尺度氏也、此娘子不聽高姓美人之所詭、應許下姓醜士之所詭也、於是兒部女王裁作此歌嗤笑彼愚也、

〔古今著聞集八好色〕刑部卿敦兼は、みめの世にくさげ成る人也けり、その北の方は、はなやかなる也けるが、五節を見侍りけるに、とりくにはなやかなる人々の有を見るにつけても、先わが男のわろきを、心うく覺へけり、家に歸りて、すべて物をもだにいはず、目をも見合す、打そばむきてあれば、まばしは、何事の出きたるぞやと、心もえず思ひわたるに、まだいにいとひまさりて、かたはらいたき程也、ささくの様に、一處にも居す方をかへて住侍けり、略下

醜女

〔類聚名義抄二〕醜女シコメコ、メ

〔書言字考節用集四人倫〕三平ト二滿ゴ本朝俗謂醜女爲乙御前又

〔日本書紀神代〕一書曰、略中于時伊弉冉尊恨曰、何不用要言、令吾耻辱乎、平原脱乃遣泉津醜女八

人一云泉津追留之、略中醜女此云志許賣

〔新猿樂記〕十三娘者、中之糟糠也、醜陋不可見人、頑鄙不可仕主、其爲體蓬頭額短、齶唇頤長、聾耳額太、顯高頰窄、歷齒禪涎、臍腓塞鼻、偶儂鳩胸、臙脹蛙腹、傍行尻脚、疥癩歷易、短頸而襟有餘、長太而裾不足、